



## 雑誌の移住特集とは？

10月にもなると、さすがに半袖では風邪をひきそうです。ポケットに手を入れて、店の中へ。喫茶店でクリームソーダを頼んで。。。あーさむい！

と、まあ、店で雑誌なんか見ていると、移住定住を特集しているではないですか。特集しているくらい移住がブームなのか？みんな移住してどこいったんだろう？

移住というのは旅行ではないので、行き先で暮らすということです。なにに、雑誌によれば、都会から移住したメリットがズドンと載っていました。「通勤時間◎」「待機児童ゼロ！」「野菜が新鮮」などなど。確かに本当のことかもしれません。でも、それを求めて移住しても、心が満たされない事を、僕は知っています。なぜか？それは暮らすということは一人では成り立たないからです。

移住とはいわなくても、生まれ故郷を離れるきっかけは、進学・就職・結婚などが多いと思いますが、これら3つは、なぜよくある話なのか？なぜ行き先の新天地でうまくやれるのか？暮らせるのか？それは、自分ひとりじゃないからです。そして、その土地に用事があるからです。

都会から山形に進学した大学生が「あー、タワレコないよー」と騒いでも「ネットで買いなよ」と一括され、それ以前に大学に進学にきたわけです。「あー、ほんとは東京の会社がよかったなー」と言っても、わざわざ履歴書送って面接して入社希望したのは自分なんです。それ以前に、社員なのです。「あー、近くにスーパーがないと料理できないわ」と主婦が言っても、そういう人は、そもそも料理する気がないので。

と、まあ、適当な妄想例で4行無駄にしましたが、何が言いたいのかということ、人にとって生まれ故郷というのは唯一無二の存在であって、その土地を離れるという事は、何かを失ってしまうという気持ちが付きまとうわけです。基本的にある程度大人になると、新しいものを素直に受け入れられなくなります。それはそうです。「ゴミを捨てましょう」と教わってきた人が「ゴミはなげるもの」と知り。「いも煮」という「けんちん汁」ではない新しい文化を知るのですから。

と、書くとはやたら喪失感が漂いますが、大切な事はこれをどう受け取るか？ということです。僕の場合、結局のところ、移住後に地元のサポーターがいたということです。「いも煮はこういうもんだ！」「ゴミはなげるもんだ！ついでにたがって！」と丁寧に教えてくれる人がいたから、山形ではこうなんだ！移住して生活するとはこういうもなんだ！とわかってきたわけです。そして、今があるのは、そうした人がいたからなんだと思います。

だから、冒頭で書いたように、雑誌の移住特集とか見ると、「これ書いた人、絶対、移住した事ないだろwwぶぶ」って思うわけです。「通勤時間◎だと！？農家なら家の外が職場だぞ！」「待機児童ゼロだと！？山形ってのは同居率全国No.1なんだから自宅が託児所なんだぞ」「野菜が新鮮だと！？こっちはたいてい家に畑があって、もらいもの文化で、そもそも野菜はもらうもんだぞ！空気がうますぎて、新鮮じゃない野菜を作るほうが難しいんだぞ！」とツッコミたくなるんだな。と思って雑誌を閉じました。

目先のメリットだけ追っても、絶対、移住はうまくいかないと思います。これから移住をしたい方にアドバイスをするのなら、というか、そういう人は、喫茶店にあるお洒落な雑誌を読むと思いますが、僕が一言！！「田舎でゆっくり、静かに暮らしたいと思ってるなら、都会の喫茶店で洒落雑誌を読もう！」ですな。だって、田舎というのは忙しいんですよ！！僕のようなギターやってます！というだけで、毎週末はコンサートだらけなんですから！人と関わらない静かな田舎。。。そんなもんはないですよー。

とか言いながら、田舎で移住特集を読む自分は何なんですかね。。。。ああ妄想だ。ぶぶぶ。